



SC来校日

1 か月におおむね2 回来校します。

来校したらヴェリタス教室（教育支援室）にいます。

相談のある方は、お気軽に声を掛けてください。**保護者の相談も受けます。**

なお、午後から来校している日は、17 時以降も対応可能です。

※6月以降の仮の来校予定日をお知らせします。ただし、コロナウィルス対策による学校の動きにより変更になる場合もあります。

6月 1日（月）PM
6月 2日（火）
6月16日（火）PM
6月17日（水）
6月30日（火）PM
7月 1日（水）
7月20日（月）PM
7月21日（火）

PMは、13:00～
17:00,その他は、8:30
～17:00です。



新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。スクールカウンセラーの佐藤伸一と申します。よろしくお願ひします。入学早々から、緊急事態宣言が出され、本校も休校措置になり、学校に慣れないままの状態、再開することになりました。さまざまな不安を抱えていると思いますが、動き出しながら不安を少しずつ解消していきましょう。

本校の教育理念は、「キリスト教の人間観に基づいて、一人ひとりの生徒を、神の似姿であり神に愛されたかけがえのない存在、それぞれに果たすべき使命を与えられた存在として大切に育てる」「人間として、最も大切な心を育てる」ことです。人は、それぞれ容姿が違つるように、性格や能力も様々です。それは、それぞれに神から与えられた果たすべき使命があるからです。生徒が自分の使命（「夢」）を見つけ、高い目標をもって、「咲くべき花を咲かせる」ために安心して進めるよう、かけがえのない存在として大切に育てます。「夢」に向かって進んでいく中で、多くの困難や苦労もあるでしょう。それを乗り越えていくには、多くの人々との関わりが必要です。聖書の言葉に、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」とあります（ローマの信徒への手紙 12 章 15 節）。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。友のために自分の命を捨てること、これ以上の大きな愛はない。」（ヨハネ福音書 15 章）とあります。困難や苦労にある時に共に励まし合い、喜びや悲しみを分かち合うことができる人になるように相手を思いやる心、互いに愛する心を育成するのが本校の教育理念です。

新2年生、3年生の皆さん、教職員も、もう一度、本校の教育理念について、私たち一人ひとりが、黙想（黙して、静かに深く思うこと）する必要があるのではないのでしょうか。困難や苦労にある時、共に励まし合い、喜びや悲しみを分かち合っているでしょうか？ 相手を思いやる心、互いに愛する心を持っているでしょうか？

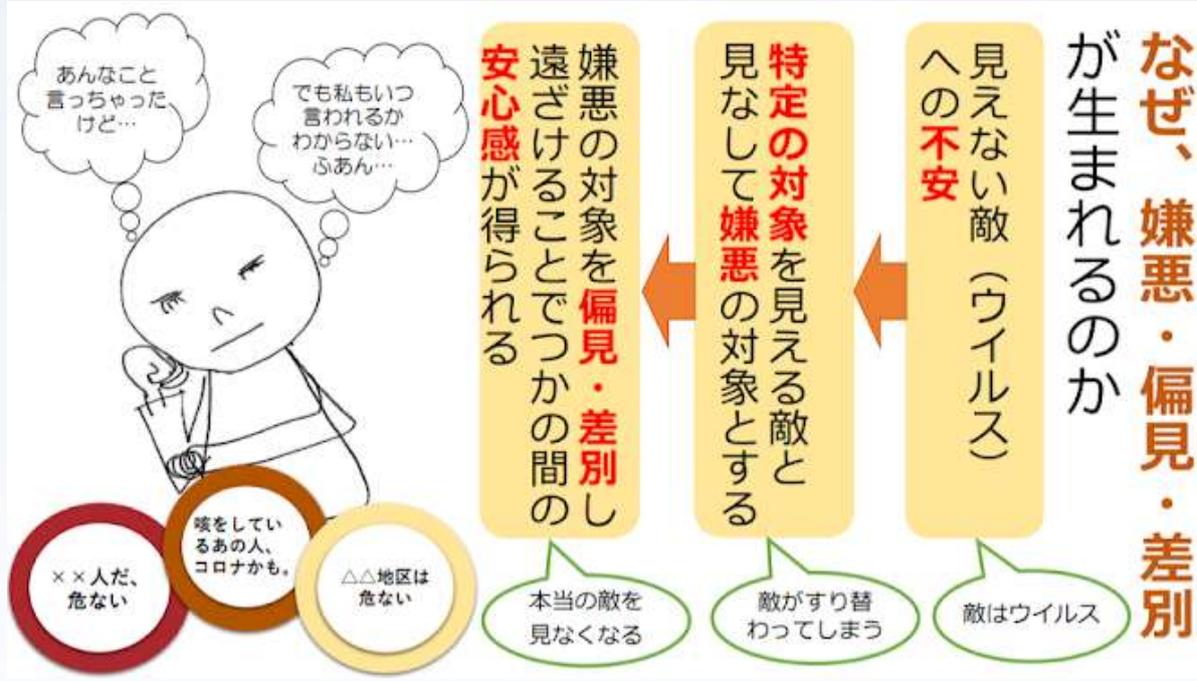
現在のコロナ禍の状況は、私たちがこれまで経験したことのないような苦しさ、多くの方がその苦しみに耐えています。苦しみの中で支えとなっているのは、多くは家族や友人であるかもしれません。また、エッセンシャルワーカー（社会生活を支える仕事に従事している人たちのこと 医療機関従事者、介護施設職員、生活必需品の製造者、スーパーマーケットの従業員、物流業者、公共サービスや公共交通機関の関係者、学童施設の職員など、休みたくても休めない人たち）もとても大事な支えになっています。医師や看護師などの医療従事者や介護施設や児童デイケアなどの福祉関係者は、自らも感染リスクにさらされ日々不安に押しつぶされそうになりながら「3密」の現場で、使命に添って仕事に従事しています。彼らが懸命に務めを果たしてくれているから、私たちは、制限下にあっても日々の暮らしができています。

私事ですが、娘が2人いて、長女は高齢者のグループホームに介護福祉士として従事し、次女は児童デイケア施設で、ダウン症などの障害児の指導員として従事しています。まさに「3密」の職場環境で、身体接触をして認知症の高齢者や障害児のケアをしています。対象者から感染させられるのではという不安よりも、自らがコロナに感染してしまい、高齢者や障害児に感染させてならないという不安の方が大きく、毎日感染対策に疲弊し、眠りも浅いといひます。いわゆるインターネットを使つてのリモートワークができる職場ではないためです。リモートワークをしなさい、3密を避けなさいと言われても、絶対にできないのです。極端な言い方をすれば、「命がけ」で仕事をしているのです。私は親として涙が出ます。

一方で、こうした「命がけ」で仕事をしているエッセンシャルワーカーに対して、「感染源」となる加害者だとして本人だけでなく、その子どもに対して、「学校に登校させるな」や「病原菌」と言つていじめていることがあるようです。対コロナの最前線となった名古屋市の南生協病院では、看護師の子どもが保育園から登園を拒否されました。東日本大震災時も、福島県から避難してきた子どもに対して、目に見えない「放射能」と言つていじめがあったのと同じ流れだと思ひます。同時に、生活圏に感染者がいるという人々の不安が高

まると、感染者が属する組織も攻撃や排除の動きに巻き込まれることがたくさん生じています。学生の懇親会でクラスター（感染者集団）が発生した京都産業大学には、「大学に火をつけるぞ」と脅迫電話があったり、また、飲食店が営業していると、「コロナ自警団（自粛警察ともいう）」が、SNSを通じて猛烈なバッシングをしたり、貼り紙をしたり、公園で子どもが遊んでいると警察に通報するなどしています。

コロナウイルスという感染症がもたらしたものは、3つあります。日本赤十字社で作成したリーフレット『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!』にも記載されていますが、第一の“感染症”は「病気」で、第2の“感染症”は、「不安」、第3の“感染症”は「差別」です。第1の“感染症”は病気そのもので、感染すると、重症化して肺炎を引き起こすというものです。第2の“感染症”は不安と恐れであり、このウイルスは見えないし、ワクチンや治療薬もまだ開発されていません。人間は、分からないことが多いと、強い不安や恐れを感じ、それに振りまわされ、「気づく力・聴く力・自分を支える力」を弱めて、人から人へと瞬く間に伝染します。第3の“感染症”は嫌悪・偏見・差別です。不安や恐れは人間の生き延びようとする本能を刺激し、ウイルス感染にかかわる人や対象を日常生活から遠ざけたり、差別するなど、人と人との信頼関係や社会とのつながりが壊されてしまいます。対人不信感を強め、疑心暗鬼にもなります。なぜ、嫌悪・偏見・差別が生まれるのか？ 下図を参照してください。



7。



そして、この3つの“感染症”は、下図のようにつながっています。

3